

特集陳列

縄文土器に飾られた 人物と動物

Thematic Exhibition
Figures and Animals as Decoration
on Jomon Pottery

2013年7月9日(火)
~10月27日(日)
東京国立博物館
平成館 考古展示室

Tuesday, July 9-Sunday, October 27, 2013
Tokyo National Museum, Heiseikan,
Japanese Archaeology Gallery

縄文時代の人びとが最も多く作った道具の一つが、煮炊きに使われた土器です。縄文時代の儀礼の道具といえば、人を象った土偶や動物形土製品がよく知られていますが、その一方で人物や動物などで装飾された土器もあります。

このような装飾をもつ土器は縄文時代早期には作られ始めたようで、中期には中部や関東地方で、後期から晩期にかけては東北地方で数多く製作されるようになり、続く弥生時代でも作られます。

この特集陳列では土器と、人や動物の装飾とのかかわりについて紹介し、土器に施された文様や装飾から器に込められた当時の人びとの思いに迫ります。なお、近年縄文時代中期の豊富な資料が報告されている、山梨県北杜市教育委員会ご所蔵の土器をあわせて展示いたします。

One of the tools most produced by people in the Jomon period (ca. 11,000 BC-ca. 5th century BC) was pottery vessels for cooking. Well-known examples of Jomon-period ritual implements are *dogu* (clay figurines) as well as ceramic objects in the shape of animals; however, there are also ritual pottery vessels with people- and animal-shaped decorations. It appears that this type of pottery vessel began being made in the early Jomon period. In the mid-Jomon period many vessels were made in the Chubu and Kanto regions of Japan, while from the late-middle Jomon period to the final Jomon period, many were produced in northeastern Japan. They were also created in the following Yayoi period (ca. 5th century BC-AD ca. 3rd century).

This exhibition introduces the connection between pottery vessels and their decorations in the shape of people or animals. It also investigates, through the designs and adornments on vessels, the beliefs that people of ancient times stored in vessels. The displayed objects include those on special loan from the education board of Hokuto City, Yamanashi prefecture, which has revealed a rich cultural source of mid-Jomon period materials in recent years.



5

じんめんそうしよくつりてどき
人面装飾付釣手土器
Vessel with Handle and
Human Face Ornament
高 19.0cm 縄文時代中期
山梨県北杜市 梅之木遺跡
55号住居跡出土
山梨・北杜市教育委員会

1

がんめんとつてつきふかばちがたどき
顔面把手付深鉢形土器
Deep Bowl with
Human Face Ornament
高 56.0cm 縄文時代中期
山梨県北杜市 津金御所前遺跡
5号住居跡出土
山梨・北杜市教育委員会

縄文時代早期・前期

早期 前9000～前4000年

前期 前4000～前3000年

土器に人物や動物を象った装飾が施されるのは、縄文時代中期後半まで遡ります。続く前期になると、東北から関東地方を中心に各地でしだいにみられるようになります。

前期後半に関東地方から中部高地にかけて分布した諸磯式土器の口縁部には、「獣面把手」と呼ばれる突起状の装飾があります。大きく誇張した特徴的な鼻の孔の形から、この獣面はイノシシを模したのではないかと考えられています。

イノシシの多産性や逞しさといった力強い生命力に注目し、家族や部族の繁栄などの願いを込めて、土器にイノシシの装飾をつけていたのかもしれませんが。



参考 土器に付けられた獣面把手

Vessels with Animal Figure Ornaments

高36.2cm
(中央奥の深鉢形土器)
縄文時代前期
群馬県安中市中野谷
松原遺跡出土
群馬・安中市教育委員会

縄文時代中期

前3000～前2000年

縄文時代中期は、縄文時代を通じて最も立体的で装飾的な土器が各地でさかんに作られます。とくに中部高地や関東地方では人物や動物などを模した文様が流行し、器の種類も増えます。

勝坂式土器はこうした装飾的な土器の代表です。顔面や人体のほかに、ヘビやカエル、サンショウウオ、「抽象文」などがダイナミックに表現されています。器面いっぱい力強く描かれたこれらの文様には、人びとの自然に対する畏怖や畏敬、また生命の誕生や再生など、さまざまな願いや思いが込められていたのでしょう。



3

深鉢形土器
Deep Bowl

高24.7cm 縄文時代中期
山梨県北杜市石原田北遺跡
12号竪穴建物跡出土
山梨・北杜市教育委員会



2

深鉢形土器
Deep Bowl

高39.3cm 縄文時代中期
山梨県北杜市石原田北遺跡
35号竪穴建物跡出土
山梨・北杜市教育委員会



4

人面装飾付深鉢形土器
Deep Bowl with Human Face Ornament

高55.0cm 縄文時代中期
山梨県北杜市寺所第2遺跡
T-11号住居跡出土
山梨・北杜市教育委員会

column1 怒った顔、笑った顔

寺所第2遺跡出土土器4の顔面装飾をじっくりみて下さい。その表情には大きな違いがあります。一方は怒った顔(上)。眉をひそめてつり上がった目元、口は一字につぐんでいます。もう一方は笑った顔(下)。目じりが垂れて口元が弓なりに上がり、微笑んでいます。また、この土器の一方の顔にだけ鼻の孔がつけられています。みる方向によってまったく異なる印象を与えるこの土器のように、一対の文様でありながら、あえて違う文様が描かれる例がしばしばあります。



縄文時代後期・晩期

後期 前 2000 ~ 前 1000 年

晩期 前 1000 ~ 前 400 年

縄文時代後期には東北地方、晩期には関東地方でも人物を表現した土器が数多く出土します。一方で動物表現のある土器は、この時期に動物形土製品が増えるせいか、あまりみられなくなります。

後期の人物表現がある土器は、数の多い順に、壺形土器とこれに由来する注口付壺形土器・有孔壺形土器、そして香炉形土器や異形土器です。他方、晩期は注口土器や深鉢形土器の数が多くなり、東北地方では前者、関東地方では後者の数が勝り、時期や地域ごとに器種の違いがあります。人物の表現のある土器は、煮炊きや貯蔵という用途を超えた、豊穡などへの祈りという意味をもっていただと考えられます。



6
 ◎人形裝飾付異形注口土器
 Jar with Spout and Human Figure Ornament
 高 17.9cm 縄文時代後期
 北海道北斗市茂辺地出土
 J-37440

column2 対になる顔と人物

縄文時代後期から晩期にかけても、対になる顔や人物装飾をもつ土器が複数みつかっています。北海道茂辺地出土の例 **6** や青森県十腰内出土の例 **8** ではそれぞれ違いがあり、意図的にその表現を変えているのがわかります。このような表現の違いを男女の描き分けと考える意見もあります。



8
 ◎人形裝飾付壺形土器
 Jar with Human Figure Ornament
 高 22.5cm 縄文時代後期
 青森県弘前市十腰内出土
 J-36811

A 面



B 面



内面



外面

9
 人面裝飾付深鉢形土器残片
 Deep Bowl with Human Face Ornament (fragment)
 長 5.5cm 縄文時代後期
 青森県平川市出土
 J-10785 (徳川頼貞氏寄贈)



7
 ◎動物裝飾付土器残片
 Vessel with Animal Figure Ornament (fragment)
 長 6.2cm 縄文時代後期
 北海道北斗市茂辺地出土
 J-37447



10
人面裝飾付壺形土器残片
Jar with Human
Face Ornament (fragment)
高 14.3cm 縄文時代後期
茨城県利根町 立木貝塚出土
個人蔵



11
人面裝飾付注口壺形土器残片
Jar with Spout and
Human Face Ornament (fragment)
長 5.5cm 縄文時代後期
福島県出土
J-38311 (谷村敬介氏寄贈)



12
人面裝飾付注口土器残片
Vessel with Spout and Human
Face Ornament (fragment)
高 4.2cm 縄文時代晩期
茨城県岩井市岩井出土
J-1870

弥生時代 前4～後3世紀

弥生時代にも人物や動物を表わした土器があります。前期から中期にかけて東日本の人物を表現した土器の多くは土偶形容器や壺形土器です。おもに蔵骨器として用いられました。その人物表現は縄文時代の土偶に由来する女性（母）像と考えられたり、墓地出土という性格から祖霊とも考えられたりしています。

一方、それまでとは異なり、立体的な表現方法だけではなく、人物や動物をヘラなどで線刻した土器が西日本を中心に分布し、中期以降には東日本へも広がります。これらは絵画土器と呼ばれ、稲作とともに大陸から伝わった思想や世界観を示したものと考えられています。



上下逆に顔が線刻されています
(安藤広道「東京都羽ヶ田遺跡出土の線刻をもつ土器について」『MUSEUM』573号 東京国立博物館 2001年)

15
人面線刻付壺形土器
Jar with Line Drawing of
Human Face Ornament
高 12.8cm 弥生時代後期
東京都あきる野市
草花字羽ヶ田出土
J-38271 (塩野半十郎氏寄贈)



13
土偶形容器
Human Shaped Vessel
高 36.5cm 弥生時代中期
長野県上田市腰越出土
J-7532
(下村市之助氏・下村五郎氏寄贈)



14
人面付壺形土器
Jar with Human Face
Ornament
高 69.5cm 弥生時代中期
茨城県筑西市女方本田前
女方遺跡出土
J-34947 (田中国男氏寄贈)

縄文土器に飾られた人物と動物を知るための本

- 藤森栄一「縄文農耕」 学生社 1970年
- 北杜市郷土資料館「遠い記憶I—八ヶ岳南麓 北杜市大泉町の縄文時代—」2004年(CD版)
- 岡村道雄「縄文人の祈りの道具—その形と文様—」日本の美術No.515 至文堂 2009年
- 井口直司「縄文土器ガイドブック —縄文土器の世界—」新泉社 2012年
- 小川忠博(写真)／小野正文・堤隆(監修)「縄文美術館」 平凡社 2013年

*図版には指定記号(◎は重要文化財)、作品名称、法量、時代、出土地、所蔵(東京国立博物館所蔵の場合には当館の所蔵番号や寄贈者)を付した。なお、参考図版は小川忠博氏撮影、安中市教育委員会の協力によるものである。地模様の展開図は人形裝飾付異形注口土器(No.6)の三次元計測データをもとに作成。当館と株式会社ラングの共同研究の成果によるものである。

縄文土器に飾られた人物と動物

2013年7月9日発行
執筆：井上洋一・品川欣也・井出浩正(東京国立博物館)
翻訳：東京国立博物館国際交流室
撮影：塩野直茂、藤瀬雄輔(東京国立博物館)
デザイン・制作：D_CODE 編集・発行：東京国立博物館



©2013 東京国立博物館